

もいゝと思ふ。「こんなに朝顔が伸びた」、「何の芽が伸びた」「さうしたものに寄せて雨上りの様子をよく感じる事

## 手 技

### 第九週

自由畫 ひなげし 一回

切り紙、ぬりゑ、なぎにて二三週前よりひなげしの觀察は幼児に度々くりかへされてゐるのであるから、自由畫としては容易に畫かれるのである。

粘土 いちご 一回

いちごを數粒落の葉なぎの上のせて幼児たちのテールのの上に用意する。幼児の觀察にまかせて、つくらせるのであるが、大體いちごの形をつくりヒゴや竹べラの先でボツボツ小さな穴をあけるこゝなぎ指導する。このいちごは乾かした後、エナメルや泥繪具をつけるとよい。粘土の色つけはどんな色でも最始白色にして、後にそのものゝ色をつける。

が出来る。

缺仕事 自在 一回

色紙だけ用意して幼児の自由につくらせる。

ぬりゑ ハナシヨウブ 一回

花菖蒲の實物を花瓶にさし、保育室におく。

製作 水族館の魚 二回

誘導保育案による水族館の製作

魚介類の繪本の觀察、魚屋の店頭にならぶ魚なぎの觀察、なぎ始めにして幼児自身に畫ける魚をかゝせる、自由畫にして始めはかゝせて、一尾一尾こしてはなしで魚らしく畫かれる様になつてからこれをきりぬかせる。年少組の極めて簡單なものであるから一枚の紙に裏表ともにかゝせる。二三尾つゝでも出来たものより糸で吊す。

## 第十週

自由畫 かめ 一回

ぬりゑに、かめをし、又保育室内にかめを飼養してある  
のであるからこれを見て、黒のクレヨンか或は毛筆で  
かゝせる。

粘土 かめ 一回

缺仕事 かめ 一回

黒の艶紙なごで切る。胴、頭、手、足、なご別々に切  
つて、はり合せる。

ぬりゑ ビワトサクランボ

サクランボ、ビワの實物を用意しておいてそれを見て  
ぬらせる、サクランボなご真赤になりたるものよりも  
色の交つたもの、うすみぎりの色ののこつてゐるもの  
の方がよい。

製作 水族館 二回

前週よりのつゞきをつくる。

魚の色ざり、大小の様子なご注意しながら次々製作

をすゝめてゆく

## 第十一週

自由畫 自在 二回

粘土 自動車 一回

ごく簡単な形の自動車をつくる。年長組の幼児の作品  
なごを参考にみせてもらふのも一方法である。

ぬりゑ デンくゝ蟲

製作 手さげかご 二回

畫用紙を材料として立體的の簡単なかごをつくる。摘  
み草なごを入れる。かごの外側はクレヨン、色鉛筆で  
模様をかき、又切り紙をはりつけてもよい。

製作 水族館の魚 二回

魚が大體出来れば海藻、貝、かに、なご幼児に出来る  
ものをつくらせる。幼児保姆の共同製作として岩をつ  
くるのもよい岩は新聞紙を適當の形にして外側を糊で  
はりつけて、乾いた後で墨や繪具で岩の色をつける。

## 第十二週

粘土 自在 一回

デン／＼蟲 一回

デン／＼蟲は幼稚園の庭なきで見つけておく。粘土を板の上で両手でのばして細長くして、くる／＼まるくまき、葉柄やヒゴなきで眼をつくつて木の葉の上への

せる、粘土をはじめの前に幼児と一緒に園庭より木の葉、眼にする葉柄や小枝を見つけに歩く。

鈿仕事 自在 一回

模造紙の材料だけ與へて自由のものをきらせる。

ぬり絵 ウチワ 一回

ウチワの色は幼児の隨意にする。

## 年長組、第一保育期

—満五歳、満六歳—

### 生活訓練

#### 第九週

年少組の時から、食事に就ては、いろ／＼又同じことも繰り返かへして、幾度びか考へて來た。しかし、さうもうまくゆかない。お辨當はうまいし、殊に年長組の六月さいへば、幼児にして最も元氣な、従つておなかのよくすく、従つてお辨當の愈々うまくもあり、楽しくもある時だ。そ

のうまくてたまらないところから、作法の方はつい／＼うまくゆかないところにもよる。そこで、食事作法の中でも、食事中話をさせていゝかどうかさいふこは作法論そのものとして常に問題になつたりしてゐる。楽しく話をしつゝたべるのがいゝさいふ説き、だまつたべるべきださいふ説きが相對立したりする。勿論、隣間々々についていへば、